

# インクルーシブの窓

令和8年3月 富山県教育委員会 教育みらい室 特別支援教育課



「新保の誇り～インクルーシブひろば change プロジェクト～」を紹介します！



「インクルーシブひろば」をご存知でしょうか？ VOL.6 1でも紹介した県土木部都市計画課で管理する「富山県空港スポーツ緑地インクルーシブひろば」は、富山市立新保小学校の校区にあります。

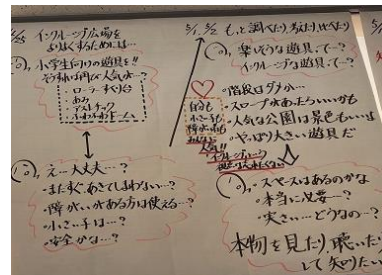
年齢や障害の有無等に関係なく誰もが遊べる場として整備されてきましたが、令和5年3月のオープン以来、ひろばを利用した方々からは「小学生でも遊べる遊具を充実させてほしい」という声が寄せられていました。

そこで、今年度、新保小学校と地域の方々、企業、富山県が手を取り合って、ひろばの遊具の増設とその周知啓発・広報物の製作に取り組んできました。

新保小学校の5年生 59名は、総合的な学習の時間でプロジェクトをスタートしました。公園管理者をはじめ、障害のある方や保護者、地域の支援者の方々との対話、ワークショップ等を重ね、「インクルーシブってどんなことか？」を考え続けました。




← 友達の考えや  
思いを聞き合う  
子供たち



← 学びの足跡の  
教室掲示（一部）

そして、「「インクルーシブひろば」をもっと良くするには、誰もが安心して楽しめる空間づくりを目指し、物と人の両方に働きかけることが大切ではないか!？」と考えが深まっていきました。7月からは、10チームに分かれ、具体的な遊具やひろばの環境づくりの検討が子供たちの手で進められていったのです。



最初は案がまとまらず大変だったけど、インクルーシブや障害のことを深く知ると、見方が変わってアイデアや、どうしたら誰でも楽しめるかという考えが出てきた。

誰かに便利でも、誰かに不便になったりすることもあるかもしれないね。

提案をするときに、理由や考え、工夫を話し合っ、自分たちが大切にしたい人たちのことをしっかりと考えることができた。

考えや意見を出し合うことができて、インクルーシブに近付けたよ。

私たちが考えた遊具が楽しんでもらえるといいと思う。

公園を使う時のルールやマナーをみんなに分かってもらうには、どうしたらいいのかなあ…。

「障害」という言葉には、何か強いイメージがあると思うようになってきたんだ…。

自分たちが考えてきたことがかなうってすごいこと！

11月に行われた学習発表会のステージ劇では、子供たちは全校児童やお世話になっている多くの方々の前で、プロジェクトを通して学んだことを自分たちで考えた言葉でつなぎ、堂々と表現しました。同校のホームページには、その時の子供たちのことが次のように紹介されています。

**インクルーシブとは何か、自分たちの日常はインクルーシブな感覚で生活できているだろうか、仲間と対話し、自分自身と対話をし続けた半年でした。その結果が、今日、一つの形となり、また次のステップに進むための糧となりました。**

プロジェクトは、3学期に入っても続けました。最初の時間には、県の担当者も交えてこれまでの取組を振り返り、この後の予定を確かめ合いました。子供たちは、ひろばのことを多くの方々を知ってもらいたいと願い、案内チラシやポスター、看板やパネルのアイデアをたくさん出し合いました。

担任の先生は、全体の活動を見守りつつ、チームとしての取組の状況を確認、子供たちの考えやアイデアの良さを価値付け、子供たちが更なる取組の意欲を高められるような言葉がけを大切に、これまで学んできた「インクルーシブ」を具体的に表現することに戸惑いや難しさを感じているかもしれない子供たちを励まし続けていました。毎回の授業に入ってくださっている専門的な立場の方々にも助言を受け、どのチームも主体的に取り組んでいました。

プロジェクトに取り組んだ子供たちが、物事を解決的に考えるようになってきています。また、プロジェクトでの学びは、他の教科等の学びにも生かされていると感じています。そして、何よりも、互いを認め合ってみんなを大切にしようとする子供たちが育ってきていることをうれしく思います。

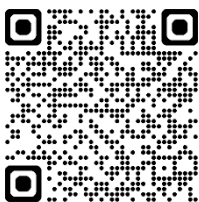


<教頭先生>

子供たちが考えた遊具は、令和8年の秋ごろに「インクルーシブひろば」にお目見えする予定です。

なお、本プロジェクトについては以下のホームページからご覧になれます。また、「インクルーシブひろば」の詳細は、富山県空港スポーツ緑地のホームページからもご覧になれます。

○ 富山県立新保小学校



○ 富山県都市計画課



○ 富山県空港スポーツ緑地



「第4回みんなが使いやすいインクルーシブひろば会議」の開催結果について

「インクルーシブひろばへようこそ」